

令和6年度【大田区立東調布第一小学校・音楽科 授業改善推進プラン】

小学校音楽科における分析

児童の実態	知識・技能	・曲想と音楽の構造との関わりに気付いたり、強弱などの動きを理解して自らの表現に生かしたりすることができた。 ・歌唱や器楽（主に鍵盤ハーモニカ、リコーダー）は、基礎的な奏法に気を付けて演奏できる児童が多い。技能に個人差があり、一斉指導の中で身に付くのに時間がかかる児童もいる。 ・音楽づくりは即興的な音選びは楽しくできるが、音楽の仕組みを生かした学習になると得意な児童の活躍が増える。 ・鑑賞は作曲家や楽曲の背景について興味をもち、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴くことができる。
	思考・判断・表現	・どのように音楽を表現するかについて、概ね自分の思いや意図をもつことができるが、それを表現することが難しい児童もいる。 ・感じ取ったことを、「音楽を特徴付けている要素」及び「音楽の仕組み」に結び付けて聴こうとしているが、言葉で適切に表すことはまだ十分ではない。
	態度 主体的に取り組む	・全体的に音楽に対する関心をもち、意欲的に取り組んでいる。 ・楽器演奏などを自主的に練習する姿が見られる。 ・苦手意識のある児童も、成功体験を重ねながら、あきらめずに練習することができる。 ・ペア学習ですすんで互いの表現を聴き合うなど、友達と協働的に学習することができる。

◎ 音楽科の課題

- ・音楽活動の基礎的な技能の定着を図る。技能の個人差に合わせた指導方法の工夫をする。
- ・一人一人の思いや意図を、表現できるようにする。さらに、言葉でも伝えることができるようにする。
- ・よさや面白さ、美しさを、「音楽を特徴付けている要素」及び「音楽の仕組み」に結び付けて聴き、感じ取ったことを言葉で適切に表すことができるようにする。また、自分の表現に生かせるようにする。

◎ 音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果◇と課題◆

- ◇ 歌唱では、歌詞の内容を理解してどのように歌いたいか思いをもって表現する児童の姿が見られた。
- ◇ 器楽では、自主的に練習し、児童同士で学び合いながら音楽をつくりあげることができた。
今後も、このような環境を意図的につくっていく。
- ◆ 基礎的な技能の定着を目指し、引き続き指導していく。
- ◆ 一人一人の思いや意図を、表現できるようにしていく。
- ◆ 音楽活動の中で「音楽を特徴付けている要素」及び「音楽の仕組み」に着目した指導をしていく。
- ◆ 楽曲から感じ取ったことや思いや意図を、言葉に表して伝えることができるようにしていく。

◎ 音楽科の具体的授業改善案

- 課題意識をもって学習を積み重ねるために、見通しやめあてをもたせ、スモールステップで繰り返し取り組み、毎時間めあてに対する到達度を一人一人が自覚できるようにする。
- ICT 機器を活用したワークシートや楽譜への記入、発言、発表などの様々な手段を通して、一人一人が楽曲に対する思いや意図をもてるようにする。
また、それを表現させるための手立てを用意し、実際の音に変えていく過程を、繰り返し丁寧に行うようにする。
- 音楽に対する感じ方やイメージを「音楽を特徴付けている要素」及び「音楽の仕組み」と関連付けて考えることを積み重ね、音楽的な見方・考え方を働かせて音楽学習を行うことができるようにする。
- 友達との関わり合いを通して、学び合い高め合えるように、音と言葉による対話を学習活動に多く設定していく。
- 友達と一緒に自分たちの音楽をつくりあげる達成感や充実感を味わわせ、次への意欲につなげるように指導していく。
- 音楽科における「知識」を、音楽を特徴付けている要素の動きを実感する中で理解させるようにする。また、意図的な指導によって、その知識を児童が更新していくことができるようにする。